人工衛星GeoEye-1がとらえた「佐賀県有明海周辺」（1）

データ提供：日本スペースイメージング株式会社
データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

本誌94号から「人工衛星GeoEye-1から見た国土の姿」を紹介してきましたが、この企画も本号で最終となります。下図は、佐賀県鹿島市有明海周辺のトゥルーカラー合成画像（Pan-sharpened image：地上分解能0.5m）です。前号と同様、パンクロマチック画像（地上分解能0.5m）とマルチスペクトル画像（地上分解能2.0m）を合成した画像です。有明海は、九州の北西部に位置し、九州最大の湾です。干満差が大きく、湾奥には広大な平野が広がっています。画像中央部の浜干拓を見ると、一つ一つの農地区画の大きさに驚かされます。地表面のテクスチャ（キメや粗さ）も識別でき、緑色の絵の具で塗った絵画のようです。広域性、同時性、周期性といった特徴に加えて、このような精度で地表面の状態を識別できる衛星リモートセンシングデータは、今後の地球環境の監視・分析支援に大きな役割を担うものと言えます。

過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html